



博多人形奉納
置帖與市氏と西頭哲三郎氏

昨年齋された古社遷宮奉納機軸として、博多人形師名匠宮三郎氏の奉納が行われ先づ「宗像大宮司氏」を奉納した。この度は、異形文化財に指定されている置帖與市氏と西頭哲三郎氏の奉納を紹介する。

置帖與市氏の力作は、茶色の組「千の利休」座像である。人形は高さ三十七センチ、茶色の法衣をまき、毅然とした態度が現れている。置帖與市氏は社神室瀧の複製品を複製されている。

西頭哲三郎氏の「澄月」等五体と宮三郎氏の作品は、平安朝時代の童子が横笛を吹いている姿で白地の衣袂に当社神紋の横の葉が並べられている。

秋の夜半、月明のち、童子の無心に吹く笛の音が聞えるようである。この置帖與市氏の「千の利休」の御奉納より当社に奉納された人形は、小島与市氏の孝聖「武丸の正助翁」(秋季大祭)奉納される翁奉納した「翁舞」白八郎氏の「宗像大宮司氏奉納の「澄月」の尊像。

写真は置帖與市氏奉納の「千の利休」像。下は西頭哲三郎氏の奉納の「澄月」の尊像。

郷土の人々は、古延喜内社の一つの宗像神社の境内として「宗像宗像」を祀ってきたが、それでも古延喜内社の八神のうちの一人である。宗像宗像は、筑前でも九州一円において、独自に宗像神社を祀ってきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。

郷土の人々は、古延喜内社の一つの宗像神社の境内として「宗像宗像」を祀ってきたが、それでも古延喜内社の八神のうちの一人である。宗像宗像は、筑前でも九州一円において、独自に宗像神社を祀ってきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。

「神道と宗像大社について」
西日本工業クラブ講演

去る十月十七日午後一時より約一時間、当社社神室瀧に宗像大社について、当社社神室瀧宮司が講演を行った。

この講演は北九州工業界一七十余社の頭で、白松兼次郎氏が司会を務めた。

宗像大社について、宮司は「神道とは、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。神道は、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。神道は、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。」

「神道と宗像大社について」
西日本工業クラブ講演

去る十月十七日午後一時より約一時間、当社社神室瀧に宗像大社について、当社社神室瀧宮司が講演を行った。

この講演は北九州工業界一七十余社の頭で、白松兼次郎氏が司会を務めた。

宗像大社について、宮司は「神道とは、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。神道は、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。神道は、神を祀り、神に祈り、神に感謝することである。」

十年目を迎える愛の贈物
重油を宗像緑風園へ

栗組柴田社長

十二月十四日午前十一時、栗組柴田社長が宗像緑風園へ重油を贈る。栗組柴田社長は、宗像緑風園へ重油を贈る。栗組柴田社長は、宗像緑風園へ重油を贈る。

郷土宗像の農耕儀礼
懐古 古野先生の著作より

郷土の人々は、古延喜内社の一つの宗像神社の境内として「宗像宗像」を祀ってきたが、それでも古延喜内社の八神のうちの一人である。宗像宗像は、筑前でも九州一円において、独自に宗像神社を祀ってきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。宗像宗像は、古延喜内社の境内に祀られてきた。

宗像大社歌会詠草
第三回 毎月十五日〆切 詠草到着順

福岡 桜井 ツ子
幼子の刻をながさず可来り来り
画のスイチきつぎ廻す

深田 中野 節子
白馬引く深紅の車に善なる手を
振りぬます面下の陛下

名残 園
菓劑を置きし柳子がそのままに
掛けての枯れし庭木に

徳重 石松やす子
里人の心を寄せて購ひし職はため
く産土の宮

田熊 鷲津かつ代
九月は腰察とを北の国たつ
きを告げそのたよりぬ

大井 安部 静子
久に來る友を待ちつつ核果共咲く
秋の下心し取る

子等より古節を祝ひて送り来し色
あやかなフレイ見る宵

田久 立花 勇雄
子らは去り去り入して和をコナ
インの首のひびき交う中

田熊 藤崎 辰子
灯に照らしてかわかたしは出櫃
とほれ秋のむらさきを思ふ

曲 天野トモエ
面壁下訪談切手を丸見しき
に出す書翰の中

田久 長畑 房江
此の朝の極端器いたく冷たく秋
深みしを今更に思ふ

田久 小方 実
歎ずてかき消された人の世の
きひし中に驚く生し

宗像大社歌会詠草
第三回 毎月十五日〆切 詠草到着順

田島 吉武 武雄
来年も豊に稲れ稲穂重なる先に
十の音響

原町 八波 五月
かきこも動使の御社我等
氏子浄りに生む

宗像 中村 幸
山小屋を出つれば月はおぼろ
崖下の沢無味に迫り来

津屋崎 麦野 時雄
千歳一遇秋信の寄進にて給興
成り大々報喜

戸畑 藤井 孝子
秋深し花のさしき吾屋に津葉の
花を盛り

吉武 白木うめ
風止めて冷をまり来る厨辺に
柿の葉落つる惠音する

武丸 原田 リノ
湧き出でし一ひらの雲も下たり
て五機ゆゆう瀬戸の上ゆく

吉武 早川 須磨
常ならず雲ゆきけし台風を近
に際し木々ゆれ

光岡 河村 久光
稲をを見ればはしつかし出櫃
せとの昔を思ひ出す

福岡 麻生 初栄
空へ響きにけり息は笑みて安
堵の我を迎る

津屋崎 占部 由久
祭衣が手塚にかけて育てたるの
白菊咲き初めけり

勝浦 永島 文子
女の吾に夜後の業は成がたし
波高きは神念しつ

宗像大社歌会詠草
第三回 毎月十五日〆切 詠草到着順

田島 吉武 武雄
来年も豊に稲れ稲穂重なる先に
十の音響

原町 八波 五月
かきこも動使の御社我等
氏子浄りに生む

宗像 中村 幸
山小屋を出つれば月はおぼろ
崖下の沢無味に迫り来

津屋崎 麦野 時雄
千歳一遇秋信の寄進にて給興
成り大々報喜

戸畑 藤井 孝子
秋深し花のさしき吾屋に津葉の
花を盛り

吉武 白木うめ
風止めて冷をまり来る厨辺に
柿の葉落つる惠音する

武丸 原田 リノ
湧き出でし一ひらの雲も下たり
て五機ゆゆう瀬戸の上ゆく

吉武 早川 須磨
常ならず雲ゆきけし台風を近
に際し木々ゆれ

光岡 河村 久光
稲をを見ればはしつかし出櫃
せとの昔を思ひ出す

福岡 麻生 初栄
空へ響きにけり息は笑みて安
堵の我を迎る

津屋崎 占部 由久
祭衣が手塚にかけて育てたるの
白菊咲き初めけり

勝浦 永島 文子
女の吾に夜後の業は成がたし
波高きは神念しつ

宗像大社歌会詠草
第三回 毎月十五日〆切 詠草到着順

田島 吉武 武雄
来年も豊に稲れ稲穂重なる先に
十の音響

原町 八波 五月
かきこも動使の御社我等
氏子浄りに生む

宗像 中村 幸
山小屋を出つれば月はおぼろ
崖下の沢無味に迫り来

津屋崎 麦野 時雄
千歳一遇秋信の寄進にて給興
成り大々報喜

戸畑 藤井 孝子
秋深し花のさしき吾屋に津葉の
花を盛り

吉武 白木うめ
風止めて冷をまり来る厨辺に
柿の葉落つる惠音する

武丸 原田 リノ
湧き出でし一ひらの雲も下たり
て五機ゆゆう瀬戸の上ゆく

吉武 早川 須磨
常ならず雲ゆきけし台風を近
に際し木々ゆれ

光岡 河村 久光
稲をを見ればはしつかし出櫃
せとの昔を思ひ出す

福岡 麻生 初栄
空へ響きにけり息は笑みて安
堵の我を迎る

津屋崎 占部 由久
祭衣が手塚にかけて育てたるの
白菊咲き初めけり

勝浦 永島 文子
女の吾に夜後の業は成がたし
波高きは神念しつ

交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

1972

信賴のマーク TOYOTA

福岡のトヨタグループ

<p>福岡トヨタ自動車株式会社</p> <p>取締役社長 金子道雄</p> <p>福岡市渡辺通り4丁目9番25号 電話(代)76-3331</p>	<p>トヨタカローラ福岡株式会社</p> <p>取締役社長 古林寿男</p> <p>福岡市長浜2丁目1番5号 電話(代)77-7631</p>	<p>トヨタオート福岡株式会社</p> <p>取締役社長 金子道雄</p> <p>福岡市大字竹下2丁目2の31 電話(代)41-5511</p>
<p>福岡トヨペット株式会社</p> <p>代表取締役専務 中山準治郎</p> <p>福岡市大字比恵92 電話(代)41-1121</p>	<p>トヨタカローラ博多株式会社</p> <p>取締役社長 久恒敏造</p> <p>福岡市大字堅粕字小柳91 電話(代)44-2111</p>	<p>トヨタオート北九州株式会社</p> <p>代表取締役専務 中村武文</p> <p>北九州市八幡区黒崎大字熊手 電話(代)62-4931</p>

